

第45回キャピラリー電気泳動シンポジウム

主催 SCE2025 実行委員会
 期日 2025年12月11日(木)・12日(金)
 会場 昭和医科大学上条記念館〔東京都品川区旗の台1-1-20、交通：東急池上線/大井町線「旗の台」駅から徒歩7分、東急目黒線「西小山」駅から徒歩12分〕
 ホームページ
<https://www10.showa-u.ac.jp/~bachem/SCE2025/index.html>
 連絡先 〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 昭和医科大学薬学部生体分析化学部門内 大会実行委員長 加藤大、事務局 村山周平〔電話：03-3784-8194、E-mail：s.murayama@pharm.showa-u.ac.jp〕

2025年度第3回近畿支部講演会

主催 (公社)日本分析化学会近畿支部・近畿分析技術研究懇話会
 期日 2025年12月12日(金) 15:00～17:00
 会場 大阪科学技術センター7階702号室〔大阪市西区靱本町1-8-4、電話：06-6443-5324、交通：地下鉄四つ橋線「本町」駅下車、北へ徒歩約7分。うつぼ公園北詰〕
 講演
 1. 企業での研究開発のおもしろさ (15:00～16:00)
 (倉敷紡績株) 東 昇
 2. 分析語りの分析知らずで42年 (16:00～17:00)
 (京都工芸繊維大学) 前田耕治

参加費 無料

参加申込 標記行事名を題記し、(1) 氏名、(2) 勤務先(所属)、(3) 連絡先を記入のうえ、下記申込先へFAXまたはE-mailにてお申し込みください。なお、参加証は発行いたしませんので、当日は直接会場にお越しください。

申込先 〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 (公社)日本分析化学会近畿支部〔電話：06-6441-5531、FAX：06-6443-6685、E-mail：mail@bunkin.org〕

※詳細は、近畿支部ホームページ
[\(http://www.bunkin.org/\)](http://www.bunkin.org/)にてご確認ください。

第36回分析化学基礎実習 —微量分析技術実習コース—

主催 (公社)日本分析化学会関東支部
 自動化された機器分析が発達した現在、材料分析や環境分析において、容量分析やピペットなど化学用体積計を用いた湿式の微量化学分析の技能をもつ研究者・技術者は著しく減少しつつあります。しかしながら、湿式化学分析は、化学量論に基づく化学反応により簡便に分析値を提供するという点で重要な役割を果たしているのは今も変わりません。計測・解析が自動化された分析機器から得られる分析値が、どの程度正しいのか、また試料の測定条件を正しく整えられているかなどを最終的に判断できるのはやはり人であり、そのような機械任せにならない分析技術者になるためには、湿式の微量化学分析の基礎技術の習得・経験が欠かせません。

そこで日本分析化学会関東支部では実際に容量分析の技術を修得していただくことを目的として本講習を企画しました。また今後の国際的な分析試験所認定制度への対応も図るように、本講習を受講して実技試験に合格した受講者には、日本分析化学会ならびに日本分析化学会関東支部から、実技試験に対

応した分析分野に関して実務者レベルの修了証を発行します。

本修了証書は、セミナー参加者の所属機関が試験所認定を受ける際に、基礎分析化学に関する技術的教育を受けたことの実績として認められます。

奮ってご参加ください。

日時 2026年1月29日(木) 9:30～18:00

2026年1月30日(金) 9:30～17:00

(修了証の受領には両日とも全日参加することが必要です。)

会場 東京理科大学神楽坂キャンパス10号館1階1011教室

(講義)ならびに2階(実験室)〔東京都新宿区神楽坂1-3、交通:JR/メトロ「飯田橋」駅(西口・神楽坂口より徒歩10分程度)、メトロ「市ヶ谷」駅(有楽町線・南北線・都営新宿線)市ヶ谷田町駅出口より徒歩7～8分程度。〕

対象者 化学分析実務を担当している技術者で、実習後も化学分析を担当する予定の者。

目的 分析技術の向上ならびに分析試験所認定へ向けての教育・訓練。

講習内容 天秤による秤量操作、ホールピペット、ビュレットなど化学用体積計の基本操作、キレート滴定の標準液の調製と標定及び飲料水の硬度(Ca^{2+} , Mg^{2+})測定への応用、分析値の解析。

募集定員 30名程度。定員に達ししだい締め切ります。

受講料(税込) 日本分析化学会会員(含団体会員)45,000円、会員外65,000円。テキスト代含む。

持参するもの 第2日目に測定する飲料水試料(市販品、水道水など500mL程度)、誤飲防止のため、飲用に適さないものは不可)、白衣、防護用めがね、筆記用具。

判定 第2日目に実技試験を行い、その合格者には「環境水中の微量分析」に関する実務者レベルの修了証を日本分析化学会ならびに日本分析化学会関東支部から発行します。

講習内容

第1日目 1月29日(木) 9:30～18:00

- 挨拶 9:50～10:00(東京理科大学) 由井宏治
- 容量分析の基本操作 10:00～11:30
 (日本大学) 四宮一総
- 容量分析用標準液の調製 13:00～14:50
 (東京理科大学) 鈴木崇広
- 容量分析用標準液の標定 15:00～17:00
 (Yoshikawa Science Laboratory) 吉川裕泰

第2日目 1月30日(金) 9:30～17:00

- 飲料水の硬度測定 9:30～12:00
 (Yoshikawa Science Laboratory) 吉川裕泰
- 実技試験試料測定 13:00～15:00
 (日本大学) 四宮一総
- 修了証授与・アンケートご記入 15:30～17:00
 (東京理科大学) 由井宏治

※講義内容及び講師は予定です。

※講義に使用するテキストは1月初旬にPDFで送付予定です。

受講申込方法 日本分析化学会関東支部ホームページをご参照ください。お申込みは2026年1月13日(火)まで(<https://kanto.jsac.jp>)

送金方法 受講申込をいただきますと、受領通知とともに請求書を送りますので指定口座に受講料をお振り込みください。振込手数料は貴方でご負担ください。なお、受講料の返金はいたしませんのであらかじめご了承ください。

問合先

講習内容に関する問い合わせ先:

東京理科大学理学部化学科 由井宏治 yui@rs.tus.ac.jp

お申込みに関する問い合わせ先:

日本分析化学会関東支部事務局 kanto@jsac.or.jp

2026年分析士会総会・研修講演会

主催 (公社)日本分析化学会・分析士会
協賛 (公社)日本分析化学会・LC研究懇談会
後援 LCシニアクラブ

分析士の方にはリカレント教育の一環として各分野の最新情報を、また受験予定者には受験に必要な情報をそれぞれ提供いたします。

日時 2026年2月20日(金) 13:00~20:00

会場 オリエンタル技研工業(株)ショールーム〔東京都千代田区内神田1-2-4、電話:03-3233-0821(代)、交通:①東京メトロ「大手町」駅C2c出口徒歩5分、②JR「神田」駅西口徒歩10分〕

https://www.orientalgiken.co.jp/experience/kanda_bridge.html

参加対象者 分析士の方々および分析士認証試験の受験を考えられる方。

プログラム

総合司会 井上剛史(北浜製作所)

10:00~ 受付

10:30~11:00 オリエンタル技研工業(株)紹介

(オリエンタル技研工業) 遠藤 謙

11:00~11:30 分析士会総会(プレゼンター:中村 洋)

1. 2026年度新役員承認

2. 2026年度地区幹事承認

3. 2026年度見学会小委員承認

4. 2026年度ホームページ小委員承認

5. ふるさと委員承認

6. その他、活動方針などの承認

11:30~12:00 分析士会・会長講演(座長:熊谷浩樹)

分析士の社会的役割

(東京理科大学) 中村 洋

12:00~13:00 休憩

13:00~13:50 分析士会・高段位者講演1(座長:坂牧 寛)
HPLC分離に関する最近の進歩

(東ソ) 伊藤誠治

13:50~14:40 分析士会・高段位者講演2(座長:清水克敏)
(U) HPLC検出に関する最近の進歩

(LCシニアクラブ) 熊谷浩樹

14:40~15:30 分析士会・高段位者講演3(座長:榎本幹司)
LC/MSにおける最近の進歩

(LCシニアクラブ) 竹澤正明

15:30~16:00 オリエンタル技研工業(株)ショールーム見学

16:00~16:50 分析士会・解説講演1(座長:太田茂徳)

(U) HPLC分析、LC/MS分析における前処理の進歩

(臨床検査基準測定機構) 岡橋美貴子

16:50~17:40 分析士会・解説講演2(座長:坂本和則)

研究・実験における試薬の進歩

(北浜製作所) 井上剛史

18:00~20:00 情報交換会

Osteria Bar IL FURLO(オステリアバールイルフルロ)
〔千代田区内神田1-2-6 産広美工ビル1F、電話:050-5484-4481〕

参加費 5,000円

参加申込方法 ①氏名、②所属、③連絡用電子メールアドレス、④登録済みの分析士資格(種別と段位)の有無を明記して下記申込先にWebからお申し込みください。なお、④は、参加者の中から分野ごとに新幹事をお願いする原則に必要な情報です。

参加申込URL

<https://forms.gle/ZszQa29S5hkJqaYt7>

参加費送金先 GMOあおぞらネット銀行 法人第二営業部

(支店コード 102) 普通 (2223352) 公益社団法人日本分析化学会分析士会

コウシャ ニホンブンセキカガクカイブンセキシカイ

参加申込・送金期限 2月6日(金)15時

申込・問合先 分析士会担当 [E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

有機微量分析研究懇談会

第93回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会

第131回計測自動制御学会力学量計測部会

第43回合同シンポジウム

主催 (公社)日本分析化学会有機微量分析研究懇談会

共催 (公社)計測自動制御学会力学量計測部会

協賛 (公社)日本分析化学会、(公社)日本化学会(申請中)、

(公社)日本薬学会(申請中)

期日 2026年6月26日(金)・27日(土)

会場 徳島文理大学 高松駅キャンパス〔香川県高松市浜ノ町8-53〕

内容 特別講演・一般講演(口頭発表、ポスター発表)

発表申込締切 2026年2月6日(金)必着

発表申込方法 ①講演形式(口頭・ポスター発表)、②申込区分(一般 or 若手(30歳以下))、③申込者氏名、④会員番号(有機微量分析研究懇談会会員の場合)、⑤郵便番号・連絡先住所(所在地)、⑥電話番号、⑦FAX番号、⑧メールアドレス、⑨所属機関(和文名および英文名)、⑩講演題目(和文題目および英文題目)、⑪発表者氏名(講演者の前に○印)、⑫発表者英文氏名、⑬講演の概要(和文100字程度)を、封書またはE-mail(件名:合同シンポジウム講演申込)にて下記の申込先宛にお送りください。

講演要旨原稿締切 2026年4月10日(金)必着

事前参加登録締切 2026年5月15日(金)必着

参加登録費 ①主催・共催および協賛学会会員:4,000円(5月15日(金)まで)、5,000円(5月18日(月)以降)、②非会員:6,000円、③学生:2,000円

申込・問合先 〒769-2193 香川県高松市浜ノ町8-53 徳島文理大学香川薬学部 山口健太郎 [E-mail: orgmicro-sympo@jsac.jp]

詳細は、日本分析化学会有機微量分析研究懇談会のHP(<https://www.jsac.or.jp/~orgmicro/sympo2025/>)にも掲載予定です。

HPLC & LC/MS講習会2026

主催 (公社)日本分析化学会・LC研究懇談会

後援 (公社)日本薬学会、(公社)日本化学会、(公社)日本分析化学会LCシニアクラブ

協賛 関東化学(株)、ジーエルサイエンス(株)、(株)島津製作所、東ソ(株)、(株)東レリサーチセンター、日本分光(株)、(株)日立ハイテクアナリシス

HPLC、LC/MSの初心者・中級者を対象とし、基礎から最近のトレンドまでを講義と実習で学びます。規定の講習を終えた方には、受講証を差し上げます。また、希望者には実力判定試験を受験する機会が付与され(無料)、合格者には2026年度LC分析士初段またはLC/MS分析士初段認証試験の筆記試験が免除される特典があります。

開催日 2026年7月22日(水)~24日(金)

会場 講義、総合討論:(株)日立ハイテクアナリシス サイエンスソリューションラボ東京〔東京都中央区新富2-15-5 RBM築地ビル、交通:①東京メトロ有楽町線「新富町」駅

お知らせ

5番出口より徒歩1分、②東京メトロ日比谷線「築地」駅4番出口より徒歩4分、③JR京葉線、東京メトロ日比谷線「八丁堀」駅A3出口より徒歩8分]
<https://www.google.com/maps/search/?api=1&query=35.671216%2C139.775>

講習プログラム

1日目（講義と情報交換会）

9.00～9.15 ガイダンス（オーガナイザー）中村 洋
9.15～9.45 講義1 概論
（東京理科大学）中村 洋
9.45～10.35 講義2 試薬・有機溶媒・水
（関東化学株）坂本和則
10.35～11.25 講義3 前処理
（一社）臨床検査基準測定機構 岡橋美貴子
11.25～12.25 昼休み
12.30～13.30 講義4 分離
（東ソーリ株）伊藤誠治
13.30～14.30 講義5 検出
（LC シニアクラブ）三上博久
14.30～14.45 休憩
14.45～15.45 講義6 LC/MS
（LC シニアクラブ）竹澤正明
15.45～16.45 講義7 トラブル解決法
（LC シニアクラブ）熊谷浩樹
17.00～19.00 情報交換会

2日目・3日目（実習、実力判定試験、総合討論）

9.00～14.50 班に分かれ、以下の4種類の実習（各140分）を2日間で受講します。

実習A-1 検出器の使い方：フォトダイオードアレイ検出器（株島津製作所）
実習講師：寺田英敏

フォトダイオードアレイ検出器（PDA 検出器）を用いると、一度の分析で UV スペクトル情報を取り込むことができます。したがって、通常の時間 - 吸光度の二次元データに加えて波長軸を含む三次元データを取り扱うことができ、分析後にさまざまな解析が可能となります。本実習では、着色料（食品添加物）の分析を例にとり、フォトダイオードアレイ検出器の基本操作と機能（ピーク純度の検定、スペクトルによるピーク同定など）について、実際の分析データを基にして学んでいただきます。また、PDA 検出器の能力をさらに高める最新のピーク解析技術についてもご紹介します。

実習A-2 検出器の使い方：蛍光検出器（日本分光株）
実習講師：佐藤泰世、実習補助員：中村朱里

蛍光物質を高感度かつ選択的に検出する蛍光検出器は、HPLC における微量成分の高感度検出や蛍光誘導体化した成分の測定等に多く使用されています。実習では、検出器の光学系やセルの実物をご覧いただくだけでなく、実際にフローインジェクション分析法による自然蛍光物質のスペクトル測定を行っていただきます。その他、蛍光検出器の原理と特徴、励起・蛍光波長の設定、誘導体化法、測定時における留意点等について学んでいただきます。

実習B カラム分離とデータ解析（株日立ハイテクアナリシス）
実習講師：清水克敏、実習補助員：宮野桃子

使用頻度が高い逆相系のカラムを用い、目的成分が分離する移動相条件を検討します。

移動相条件が分離・保持時間に影響を与えること、最適条件を設定するためのポイントを学びます。取得したクロマトグラムを使用し、ベースライン補正方法と定量の実際、カラムの性能評価を実習していただきます。

実習C 固相抽出～原理と基礎操作）（ジーエルサイエンス株）

実習講師：太田茂徳

LC/MS/MS など分析装置の感度と選択性の向上が目覚ましい今日においても信頼性の高い分析を行うためにはサンプル前処理が必要な場合が少なくありません。特に医薬品バイオアナリシス、食品分析、環境分析など複雑なサンプルマトリクス中の微量成分を分析する場合はサンプル前処理が成功の鍵となります。本実習では幅広く使用されている固相抽出について色素サンプルを使用し受講者全員に前処理を体験していただきます。また、カラムスイッチング技術を使用したオンライン固相抽出法についても紹介します。

実習D LC/MS の使い方（LC シニアクラブ¹⁾、（株東レリサーチセンター²⁾）

実習講師：竹澤正明¹⁾・櫻井 周²⁾

タンデム四重極質量分析計を用いた LC/MS/MS システムは、通常のマススペクトルの測定に加え、プロダクトイオンスペクトルやプリカーサーイオンスペクトルの測定が可能です。近年では、特に SRM モードを用いた選択性の高い高感度分析が可能であり、さまざまな試料中の微量成分の定量分析に使用されています。本実習では、合成抗菌剤の一斉分析を例にとり、測定条件の最適化方法、SRM 法を用いた定量分析法について学んでいただきます。

なお、実習用の白衣はなくとも結構です。実習 B では、計算機（またはスマホ等）を使用しますので、各自ご持参ください。また、実習にあたっては十分な安全対策を講じておりますが、講習会への行き帰りおよび講習・実習中の事故等にいては、免責とさせていただきます。必要と思われる方はご自身での保険加入をお願いいたします。

2日目 15.15～15.45 実力判定試験（無料・マークシート方式。希望者のみ、LC コースまたは LC/MS コースのいずれかを受験）

受験希望者は 2B～6B の黒鉛筆と消しゴムを持参ください。実力判定試験の合格者は、LC 分析士初段または LC/MS 分析士初段認証試験合格者と同等の実力を有するとみなされます。後日、初段試験の受験料と登録費を支払われた方には、当該資格の登録証が送付されます。

3日目 15.10～16.10 総合討論
16.15～16.30 受講証授与

日程	2日目午前	2日目午後	3日目午前	3日目午後
時間	9.00～11.20	12.30～14.50	9.00～11.20	12.30～14.50
実習 A	1班	4班	3班	2班
実習 B	2班	1班	4班	3班
実習 C	3班	2班	1班	4班
実習 D	4班	3班	2班	1班

募集定員 45名

参加費用 40,000 円（LC 研究懇談会・個人会員）、45,000 円（LC 研究懇談会・団体会員）、50,000 円（後援学会・個人会員）、55,000 円（後援学会・団体会員）、60,000 円（その他）
日本薬学会会員として申込みされる方は、後援学会欄に日本薬学会が表示されていることをご確認のうえお申込みください。まだ表示されていない場合は、表示されるまでお待ちください。
(領収書の発行は、送金月日にかかわらず 2026 年 7 月 25 日以降となります。請求書は発行しません。)

参加方法 LC 研究懇談会のホームページなどから、以下の URL にお申し込みください。
<https://forms.gle/nAjzQuYyGENMKeTs7>

参加申込・振込期日 2026 年 7 月 1 日（水）（15 時）

参加費振込先 りそな銀行五反田支店、普通口座、口座番号：0802349

(公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会
コウシャ ニホンブンセキカガクカイエキタイクロマトグラ
フィーケンキュウコンダンカイ
連絡先 ご質問・総合討論で議論したい事柄などがあれば、あ
らかじめ下記へお知らせください。
LC 研究懇談会 [E-mail : nakamura@jsac.or.jp]

—以下の各件は本会が共催・協賛・ 後援等をする行事です—

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

日本金属学会オンライン教育講座 「医療用無機材料の表面反応」

主催 (公社)日本金属学会
期日 2025年12月8日(月)・9日(火)
会場 オンライン (Zoom)
ホームページ
<https://www.jim.or.jp/seminersymposium/>
連絡先 〒980-8544 宮城県仙台市青葉区一番町1-14-32
(公社)日本金属学会 セミナー・シンポジウム参加係
[電話: 022-223-3685, E-mail: meeting@jimm.jp]

第310回ゴム技術シンポジウム 「先端産業を支える接着技術の最新動向」 ～接着学会と日本ゴム協会接着研究分科会の共催

主催 日本ゴム協会接着研究分科会 (共催: 日本接着学会)
期日 2025年12月16日(火)・17日(水)
会場 東部ビル5階
ホームページ
https://www.srij.or.jp/event_detail/20251216/
連絡先 〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-26 東部ビル
1階 (一社)日本ゴム協会 研究部会 高田顕弘
[電話: 03-3401-2957, E-mail: kenkyuubukai@srij.or.jp]

電気化学セミナーD 「最先端電池技術-FY2025」

主催 (公社)電気化学会
期日 2025年12月16日(火)・17日(水)
会場 千葉工業大学津田沼キャンパス2号館3階大教室
ホームページ
https://www.electrochem.jp/post_seminar/6549/
連絡先 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-1-6 日本弘
道会ビル7F (公社)電気化学会 事務局 原 優美子
[電話: 03-3234-4213, E-mail: seminar@electrochem.jp]

日本金属学会オンライン教育講座 「金属材料の耐環境性(3) 水素脆化と水素検出・計測技術」

主催 (公社)日本金属学会
期日 2025年12月18日(木)・19日(金)
会場 オンライン (Zoom)
ホームページ
<https://www.jim.or.jp/seminersymposium/>
連絡先 〒980-8544 宮城県仙台市青葉区一番町1-14-32
(公社)日本金属学会 セミナー・シンポジウム参加係
[電話: 022-223-3685, E-mail: meeting@jimm.jp]

第43回コロイド界面技術シンポジウム “自己組織化や分子集合体を 活用した製剤設計・評価技術”

主催 日本化学会 コロイドおよび界面化学部会
 期日 2026年1月23日（金）
 会場 同志社大学東京サテライト・キャンパス
 ホームページ
https://colloid.csj.jp/202510/43th_colloid_sympo/
 連絡先 日本化学会 コロイドおよび界面化学部会
 [E-mail : jigyoukikaku_01@colloid.csj.jp]

能で、審査を通過した論文は、単行の特集号を除く「分析化学」第75巻（2026年）合併号の冒頭に掲載する予定です。多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。詳細はホームページをご確認ください。
 特集論文原稿締切：2026年4月17日（金）（第3期）

第34回放射線総合利用シンポジウム

主催 (一社)大阪ニュークリアサイエンス、大阪公立大学量子ビーム誘起反応科学研究所
 期日 2026年1月26日（月）
 会場 サンエイビル（大阪ニュークリアサイエンス協会事務局ビル）3階会議室
 ホームページ
<http://onsa.g.dgdg.jp/>
 連絡先 〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-3-27
 サンエイビル (一社)大阪ニュークリアサイエンス協会 総務部 八木尋子〔電話：06-6282-3350, E-mail : onsa-ofc@nifty.com〕

「分析化学」編集委員会特集 “分析化学の次世代を担う若手研究者”の論文募集

「分析化学」編集委員会
 2026年度（第75巻）の「編集委員会特集」のテーマは、日本分析化学会の若手組織である「若手交流会」とのコラボレーション企画として、「分析化学の次世代を担う若手研究者」に決定いたしました。分析化学における若手研究者のアクティビティを示すことを目的として、おおむね45歳以下の若手研究者・技術者を筆頭著者とする論文を募集いたします。チャレンジングな研究論文、ご自身の研究業績をとりまとめて体系化した総合論文、ある分野の研究動向を総合的・体系的に論じた分析化学総説など、多数の論文の投稿をお待ちしております。詳細はホームページをご確認ください。
 特集論文申込締切：2025年10月4日（金）
 特集論文原稿締切：2025年12月6日（金）

第42回希土類討論会

主催 日本希土類学会
 期日 2026年5月14日（木）・15日（金）
 会場 タワーホール船堀
 ホームページ
<https://www.towerhall.jp/>
 連絡先 〒680-8552 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 鳥取大学工学部化学バイオ系学科 増井研究室内 日本希土類学会事務局 山口和輝〔電話：0857-31-5264, E-mail : office@kidorui.org〕

「分析化学」特集 “未来を拓く熱分析”の論文募集

「分析化学」編集委員会
 「分析化学」編集委員会は、熱分析研究懇談会と共同で「未来を拓く熱分析」と題した特集を企画しました。熱分析は、物質の温度を調節されたプログラムに従って変化させながら、その物質の物理的性質を温度（または時間）の関数として測定する一連の技法の総称です。適用範囲は、プラスチック、ゴム、セラミックス、金属、鉱物といった材料分野から、食品、製薬などの製品分野、生体・環境・エネルギー分野と多岐にわたり、およそあらゆる物質を対象としています。対象も手法も日々進化しています。本特集号では、広く熱分析が力を発揮した研究論文の投稿をお待ちしています。奮ってご投稿ください。詳細はホームページをご確認ください。
 特集論文申込締切：2026年2月20日（金）
 特集論文原稿締切：2026年4月17日（金）

「分析化学」年間特集“波”論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より年間特集を企画し、2026年のテーマを「波」と決定しました。

「波」は光の波長と波数を想起させることから、分光分析の基礎および応用についての論文を募集します。例えば以下のような研究について募集を行います。

1) 将来的に分析化学に応用される可能性をもった分光測定法の開発。2) 分光分析による構造解析、定量、微量検出、化学種同定。3) 表面分光・顕微分光による局所測定とイメージング。4) 分光法と類似の情報が得られる中性子や超音波を用いた測定。5) 多変量解析や理論計算による分光測定結果からの情報の抽出。

一方で、「波」は直接、海や川の表面に起こる波を連想させます。本特集においては、海洋や河川の表層または岸辺を対象とした環境分析についても論文を募集します。

本特集に関わる論文は年間を通じてご投稿いただくことが可

初めて書く論文は母語の日本語で！ “第25回初執筆論文特集”募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、2026年（第75巻）に第25回「初執筆論文特集」を企画し、下記要領で論文を募集します。卒研生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2025年より本特集名を「若手初論文特集」から「初執筆論文特集」と変更しました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

自分のアイデア、研究成果を自由に表現できる母語の日本語で、初めての学術論文執筆にチャレンジしてください。先生や先輩に指導をいただいで、論文作成法を習得する良いチャンス

にもなります。これは大変貴重な経験であり、次の新たなステップにつながることでしょう。このチャンスは一度しかありません。多数の方々からのご投稿をお待ちしております。

「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020年4月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdfファイルを進呈することにいたしました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式（P：印刷ページ数）（単位：円）
会員の場合： $30,000 + 5,000 \times (P - 4)$ （印刷ページ数が14ページ以上は一律80,000円）
会員外の場合： $40,000 + 5,000 \times (P - 4)$ （印刷ページ数が14ページ以上は一律90,000円）

*上記に消費税がかかります。

3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要請が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会
〔E-mail : bunseki@jsac.or.jp〕

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといつても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に着ける必要があると考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
 - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
 - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
 - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
 - 4) 分析に必要となる試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
 - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
 - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報な